

新大阪駅周辺地域のまちづくりに関する意見交換の概要 (前回協議会以降の取り組み)

■協議会関係者以外の対象者 (9月26日～1月10日)

○民間事業者・個人事業主など (46名)

- ・ホテル、不動産開発、銀行、ICT系、クリエイター支援、(設計等) コンサルティング、ランドスケープ、書道家、飲食業、海外企業の誘致、高速バスマーケティング、デザイナー、学生、バス会社

○大学 (5名)

- ・都市計画、交通計画、ランドスケープ

■新大阪駅周辺に関する主な意見

○全体

- ・関西で誰もが知る「あの新大阪」が変わるというインパクトとして、新大阪のとりくみを大阪人の誇りや希望としていくことが大事であり、水の都、商都大阪、天下の台所、御堂筋の先見的な整備といった大阪の輝かしい歴史と、新大阪のとりくみを重ね合わせたストーリーが重要。
- ・都市圏を超えた広域エリアの観点から、全国の人を惹きつける魅力があり、わかりやすい物語とすることが重要。
- ・日本全体で見た時に、東京と大阪という性格の違う2つの大都市があることに意味があり、災害リスクへの対応など、持続可能性も確保できる。
- ・人を惹きつける力は人であり、人が人を呼ぶエリアが発展するため、新大阪の価値を一緒に高めていける人の集まりを作っていくことが重要。小さな緩やかな連携から、少しずつ大きく育てる、地道な努力が成功につながる。
- ・新大阪では、尖った新しい発想を認めていく寛容さが大事。
- ・新大阪で、作ってものを大事にしていくことで、将来には文化遺産として残っていく。
- ・大阪で育った人の多くは、仕事以外の目的で、東京に行きたいとは思わないので、東京に集中集積したストックを、大阪に拠点を構えてうまく活用していくという観点がうまれてくる。

○交流促進機能 (ビジネス・産業)

- ・大阪は庶民のカルチャーであり、アジアなどの外国の異文化とのフュージョン・交流の中で、発展してきた。新大阪を“日本最大のフュージョンエリアにする”意気込みを持つことが大事であり、そのような魅力に若い人やクリエイティブで、チャレンジする人が集まり、ビジネスが生まれてくる。
- ・情報化が進めば、大阪にしようが東京にしようが関係ない。だからこそ、フェイス・トゥ・フェイスが重要になる。信頼できる人がいるかという個人的なネットワークやリアルなコミュニティが大事になる。
- ・アジアの企業にとって、東京よりも大阪は近く、大阪の中でも広域交通の利便性が高い新大阪は人気だが、オフィス供給が少なく、進出を断念した企業もいる。今後、さらに利便性が高まるのであれば、床の供給をいかに増やすかは大きな課題。

- ・社会のニーズの細分化などに対応し、新しいものを生み出すベンチャーをユニコーン化させていくことは大事であり、大阪にはその気質がある。新大阪において、スタートアップが集積しやすい場所を意図的に作り、サポートしていれば大きな力になる。
- ・民間の都市開発の機運を高めるのは極めて重要で、大街区化の誘導は重要な要素。

○交流促進機能（観光・文化・エンターテインメント）

- ・歴史・文化・食の3要素がそろえば日本は強く、とりわけ京都、奈良、大阪は歴史があり、アジアでこれに匹敵するところは見当たらない。奈良、京都等とつながることが大事。
- ・新大阪において、文化を育むには、ゆったりした空間が必要。
- ・新大阪に来やすくなることと、色々なところに行きやすくなることを、うまく活かすことが大事。

○交通結節機能

- ・国際的なビジネスという点でも、広域の人の動きを支える拠点は重要であり、新大阪駅の利便性はもとより、空港とのネットワークは極めて重要
- ・淀川左岸線が整備されれば、新大阪のバスターミナルは、高速バス、空港バス、着地型観光、送迎、地域の乗り合いバスなど、多様な可能性があるため、単に集約するだけでなく、将来の可能性を見据えた規模感を作る必要がある。

○都市空間機能

- ・駅を中心に、人がグラウンドレベルを歩ける空間やオープンスペースがある場所は、企業や人からも働く場所として選んでもらいやすく、結果として、都市の寿命も長くなり、投資効果も高い。
- ・十三、淡路を含めて、新大阪周辺で、新しさや懐かしさなど、色々な環境をつくり、回遊性を持たせることがよい。
- ・障がいのある人も含めて、多様な人が集まれる場所になると素晴らしい。
- ・作った空間を維持し続けるという観点も大事。
- ・環境面で木質建築、木質空間という切り口もあるのではないかな。